

令和元年度 新潟市新津鉄道資料館第1回運営協議会 会議録

■日 時：令和元年6月24日（月） 13：45～15：15

■会 場：新潟市秋葉区新津地域学園301研修室

■参加者：新津鉄道資料館運営協議会 金山委員，帆苅委員，南雲委員，澤野委員，野本委員，  
奥原委員，斎藤委員

歴史文化課

小沢課長

新津鉄道資料館事務局

高山館長、加藤副館長、岩野学芸員

（以上10名）

■傍 聴 人：0人

■資料配付：新津鉄道資料館運営協議会次第及び別紙1～6

■意見聴取：1 報告事項

- 1) 平成30年度入館者数実績報告
- 2) 平成30年度事業報告
- 3) 平成30年度アンケート集計結果報告
- 4) その他

2 協議事項

- 1) 令和元年度事業方針と事業計画について
- 2) その他

（事務局から案件を説明し、その後に意見聴取をおこなった）

高山館長	<p>これから、新津鉄道資料館の第1回運営協議会を開催させていただきます。本日はお忙しい中ありがとうございます。司会を務めさせていただきます、資料館の高山といたします。よろしく願いいたします。（一同、挨拶）</p> <p>当館の副館長でありました水澤が7年ほど居りましたが、この4月の異動で加藤に変わりました。</p> <p>それではこれより、議事を進めさせていただきます。最初に、歴史文化課の小沢課長からご挨拶申し上げます。</p>
小沢課長	<p>皆さんこんにちは。前回、昨年12月の会には議会の関係で出られず大変申し訳ありませんでした。皆様方にお会いするのは1年ぶりかと思えます。</p> <p>皆様方におかれましては、当資料館の運営、本市・新潟市政にご理解・ご協力いただきまして、ありがとうございます。これから、平成30年度の事業について報告ございますけれども、大幅にリニューアルをして4年目ということで、若干入館者数落ちましたけれども、それでも1割減ぐらいだったので、昨年の夏の猛暑等々を考えれば、それほどの落ち込みではなかったのではないかと、私個人的には思っておりますが、また皆さん方からお知恵をいただきまして、当館の円滑な運営に尽力してまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>

高山館長	<p>それでは本日の委員会の日程ですが、次第に基づき進めさせていただきます。概ね15時15分ごろには終了とさせていただきますと存じます。</p> <p>もちろん、運営協議会委員の皆様のご任務につきましては、資料館の運営・事業について幅広いご見識をお持ちの皆様から忌憚のないご意見をいただきまして、それらを参考にして、我々もより良い資料館運営をおこなってまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、金山先生に座長をお願いしたいと存じますが、いかがでございますでしょうか。(一同、拍手)では、金山先生、よろしく願いいたします。</p>
金山委員	<p>金山です。ご指名いただきましてありがとうございます。それでは、限られた時間ではございますが、議事を進行させていただきたいと思っておりますので、皆さんよろしくご協力のほどお願いいたします。</p>
金山座長	<p>では事務局の方から、平成30年度の実績・事業報告を一括して説明をお願いします。</p>
加藤副館長	<p>まずお配りした資料を確認させていただきたいと存じます。1枚目は次第、2枚目は委員の皆様の名簿です。</p> <p>それでは別紙1-1をご覧ください。</p> <p>平成30年度新津鉄道資料館入館者実績は60,107人で、平成29年度実績の約9割にとどまりました。有料入館者数と無料入館者数ともに前年割れとなっております。</p> <p>平成29年度は、E4系新幹線、115系電車を搬入・展示し、またミニSLの運行を開始するなど、マスコミに取り上げられ注目を集めたことで来館者数が大きく伸びましたが、平成30年度はこれらが落ち着いたために、その反動が出たものと思われまます。</p> <p>別紙1-2をご覧ください。そうしまして別紙3がアンケートになっておりますけれども、アンケートの冒頭の所に入館者の推移のグラフがありますので、そちらの方も併せてご覧いただければと思います。</p> <p>月別の推移ですけれども、上期では、6月から8月にかけて、前述の前年からの反動と、酷暑と呼ばれるほどの暑さの影響、それからサンクスフェアを駐車場など運営面の問題から3日間から2日間にしたことなどの影響が出たとみています。裏面は下期の月別の推移ですが、10月にGA-100新幹線確認車の寄贈を受け、実車展示の増強を図りましたが、来館者の大幅増には至りませんでした。しかし、冬は雪が少なく、「水と土の芸術祭パスポート」や「天皇陛下在位30年」での無料入館者が増え、下期全体としては前年を上回る入館者数となりました。</p> <p>別紙1-3をご覧ください。30年度ミニSLの実績です。29年度は7月からの運転ですので、日数の違いがありますが、前年比2,635人の増加となりました。</p>

	<p>続きまして別紙1-4は、新津駅東口に設置しているサテライト「ていしやば」の実績です。入館実績は年間8,126人で昨年より60人の減少となりました。また、レンタサイクルは717台の利用で、昨年より51台の減少となりました。</p> <hr/> <p>続きまして、平成30年度事業報告をさせていただきます。</p> <p>別紙2をご覧ください。平成30年度は44の企画事業を実施し、3つの長期事業、4つの共催・協賛事業を実施しました。</p> <p>7月14日から9月3日まで、特別展「新潟 駅図鑑 - 駅と鉄道の120年 -」を開催し、合わせて特別展解説会や長岡大学の松本和明先生をお迎えしての特別記念講演会を実施しました。</p> <p>7月28日・29日のサンクスフェアは来館者4,601人でした。</p> <p>10月6日には、GA-100新幹線確認車の贈呈式と一般公開を行いました。また同日、元JR本社運転局車両運用課補佐の大熊孝夫氏による講演会「鉄道事故とATS」を開催しました。</p> <p>10月21日には、当館ボランティアの企画で当館の電車運転シミュレータを使った運転技能選手権を実施し、16人の参加者が難関に挑戦しました。</p> <p>このほか、毎月第4日曜日「実車公開」事業を継続し、車内公開を実施しました。また、企画展示室で「トイトレインレイアウト」を長期に実施すると共にキッズコーナーを広げるなどファミリー層に対応した事業を実施しました。長期事業としましては巡回バス事業を実施し、40日間で約3,860人の乗車がありました。</p> <p>以上、平成30年度の実績報告と各種事業報告でございました。</p>
<p>岩野学芸員</p>	<p>続きまして、別紙3のアンケート集計についてです。2018年度まるまる集計したのが以下になります。前回の運営協議会で、アンケートの書式として、当館のどこがおもしろかったのかをきちんと答えられるようにした方がいいのではないかというご意見を伺いまして、今取っているアンケートはお配りした紙のように、最初の所でどこが印象に残ったかを回答できるようにしてあるのですけれども、2018年度はそれが無い状態でとりましたので、その項目はありません。そこはご了承ください。次の運営協議会から見えてくると思います。吹き出しの中に、アンケートの用紙の設置場所を変更した関係で回答率が上昇、とありますけれども、諸般の事情で1Fから2Fのパノラマ展示室の方へ移しましたところ回答率が上がりまして、ここだけ数字が1%台後半になっています。回答の内容を見ていきますと、世代別のアンケート回答者数の所では例年通りの割合になっていまして、来館同行者の区分・きっかけのところではだいたいいつも通りで、ただ、2人～4人の家族連れが多いのは例年通りですが、きっかけに関しては、webページを見て来た人の割合が徐々に上がっ</p>

	<p>ているようです。背景はわかりませんが、インターネットを見て来た方が多くなっているようです。来館者の住所の区分の比率は県外50%、市内27%、県内18%で県外客の割合が多い傾向です。グラフにはありませんが、16歳以下の子供を除外して計算しますと、県外の人が6割くらいになりますので、やはり県外からきてアンケートを回答する人の率が高いところは傾向としてあると思われます。市内では、今期に限りますと、極端に低い区はありませんので、アンケートに回答してくださる方は満遍なくきてくださっているようです。来館目的に関しましては、市内に住んでいる人は家族サービスで来る人が多いのに対して、県外から来る人は観光旅行・鉄道旅行で来る人が多いという傾向が見て取れます。実際、来館者の様子を見てみると、近所のリピーターの方は家族で来ている方が多く、土日に県外から来ている方は観光として来ている方が多い、という印象があります。</p> <p>次に行ったことのある市内の博物館・美術館施設といったことのある鉄道博物館に関しては例年通りの傾向で、マリニピア日本海といくとびあ食花が当館と同じ子供向けの施設ということで、来館者数が比例関係になっているようです。</p> <p>鉄道博物館・資料館で言いますと、鉄道博物館が飛び抜けて多く、2番手として碓氷峠の鉄道文化むらと京都鉄道博物館がいるという構図になっています。これは旧交通科学博物館の項目がまだあり、これを京都鉄道博物館と一緒にしてもよいかと思ひますが、今のところこの形で取っております。</p> <p>記述に関しては、例年通り建物の老朽化を指摘する声や、思っていたより充実していた、という声が多く見受けられました。以上です。</p>
金山座長	各報告事項に各委員のみなさん、何かご質問・ご意見がありますでしょうか
野本委員	来訪者ですけれども、海外から来る人はどのくらいいますか。
岩野学芸員	アンケートが日本語で書かれているので、どうしても誤差のように、台湾とかアメリカとか書かれています。観光関係のところからも、海外来訪者が調べられないかとの話があり、今アイデアを出している段階です。地図にシールを貼ってもらうことを考えております。それがうまくいけば、海外の人がどこから来ているのか今よりは分かるかと思ひます。
金山座長	目立って来ているというわけではないですか。
岩野学芸員	海外は特に、はい。
高山館長	でも、増えているというのは確かです。
岩野学芸員	欧米系の人があると分かりますが、アジア系の人があると、コミュニケーションしないと分からない面があります。
高山館長	ただ、今のところは、そうした方々のうちお一人くらいは日本語を話される方がおいでになるので、対応は全然困ってはいないです。増えている傾向では

	あります。
金山座長	今後の様子をみた方がいいですね。他はいかがでしょうか。
沢野委員	今の海外に関する話の続きで、アンケート用紙の後ろに英語版等を作成する予定はありますか。
岩野学芸員	アンケートは今のところないです。それから、リーフレットに関してはやった方がいいというのは前から言われてはいるのですが、そこまで手が回らないというのが実情です。
金山座長	<p>需要があれば、沢野さんがお話ししたように、それくらいの対応はしなくていけないとは思いますが、様子を見ながらということだろうと思います。他によろしいですか。(質問、意見等なし)</p> <p>それではとりあえず協議へ進めさせていただきたいと思いますので、質疑応答の時間はまた最後をお願いします。</p> <p>では、令和元年度の事業方針及び事業計画について、一括してご説明の方お願いいたします。</p>
加藤副館長	<p>別紙4-1「令和元年度新津鉄道資料館事業方針概要」を参照ください。全体の方針として4点です。</p> <p>1点目は各種事業を通して集客を目指していきます。組織目標を定め「鉄道の街にいつ」のブランドを活かし全国からの集客を図っていきます。</p> <p>2点目は施設として運営のノウハウを蓄積していきます。とりわけ、鉄道文化に関する知識や施設運営に関する手法などを共有し、積極的に活用していきます。</p> <p>3点目は地域と長期的且つ、安定的な関係を構築していきます。地域における拠点施設としての役割を果たしていきます。</p> <p>4点目は当市の新たな魅力づくりを図っていくことです。具体的な取り組みについては展示公開事業として、今年度からE4系新幹線の運転席公開を新たに実施しております。10連休となったゴールデンウィークには、E4効果で1万人以上の来館者がありました。また、今年はSLばんえつ物語号が20周年を迎え、またディステーションキャンペーンの始まる秋までに新型観光列車「海里(かいり)」がデビューすることなどから、新潟の観光列車の歴史を紹介するとともに、鉄道旅行という観点から新潟の鉄道の魅力を再発見する特別展「鉄道で旅する新潟～鉄道旅行と観光列車～」を開催します。</p> <p>また、小さなお子様に人気のミニSLの運行につきましては、ミニSLの愛称を募集しました。北は札幌、南は長崎まで46件の応募がありました。7月13日サンクスフェア初日に発表の予定でございます。このほか各種企画事業を行います。</p> <p>資料収集保存事業では寄贈いただいた資料、とりわけ瀬古龍雄氏からの資料</p>

	<p>の整理を中心に実施します。調査研究では鉄道OBの方々から当時の話を聞き取りする座談会の開催を予定しております。教育普及事業では主にボランティア事業や学校への出前授業、鉄道講演会などを実施します。広報宣伝事業では資料館の認知度をさらに上げていくためSNSでの細やかな発信、ホームページの充実、チラシの効果的な配布などを中心に実施していきます。</p> <p>令和元年度新津鉄道資料館事業計画につきましては別紙4-2に記載しておりますのでご覧ください。以上になります。</p>
金山座長	以上の事務局の説明についてご質問・意見等ありますでしょうか。
斎藤委員	新潟ディステーションキャンペーンと、9月から国民文化祭ということで、大きいイベントが2つありますけれども、そこの共催というか、それに関連したイベントの企画等がありますか。国民文化祭のパフレットに鉄道関連ツアーというのを見つけたのですけれども。
加藤副館長	<p>国民文化祭で鉄道のミニツアーを10月13日ごろを中心に予定しているというふうなお話を聞いております。</p> <p>その他、ディステーションキャンペーンにつきましては、当市の観光政策課の方で企画をしている事業で、そこに秋葉区役所が参加しての話になりますけれども、新津駅を拠点としまして、街中を巡るようなツアーというのもディステーションキャンペーンで来ていただく方々に向けた企画として計画しているというところでございます。</p>
斎藤委員	ありがとうございます。
金山座長	よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。
沢野委員	ここに令和元年度の事業計画の説明がありますが、運営のノウハウを蓄積とありますが、分かりやすくいえば、ここの館の収蔵品・展示品等の知識は職員にあるか、皆様方の自己研鑽はどういう風になさっているか、答えられる範囲で聞かせてもらえますか。
岩野学芸員	館全体としましては、年1回解説員を含めましてJRの施設を見学するなど研修活動をしております。それから、学芸員に関しては、特に資料収集に関してキチンとノウハウを積まなくてはならないということで、昨年資料がどういう風に来ているのかをインタビュー調査をさせていただいたりしています。あと、新潟の鉄道に関するところというのは、基本館の活動の中で勉強していくという形でやっていて、ちょっとそこが弱いので何らか勉強会のようなことをした方がいいかとは考えていますけれども、今はそこまで手が回っていない状態です。
金山座長	ほかにいかがですか。
南雲委員	先程（平成）30年度のところで巡回バスを運行して3,600人の乗車があったというところの、鉄道資料館と商店街の巡回バスを30分おきにといいことですが、別紙4-1の2枚目の9番目のところには「新潟市新津美

	術館行き」とありますが、こちら令和元年度はルートが変わるということでしょうか。今度は商店街に停まらず美術館を回ってという形でしょうか。
加藤副館長	ご指摘ありましたように、平成30年度は新津駅と当資料館それから商店街の3か所を結ぶ形で巡回バスを運行しましたけれども、今年度はその商店街に代えまして新津美術館へ、元々は往復していたバスをその商店街を入れて三角形を描くように運行していましたが、それを大きくしてその一点が商店街から新津美術館に移して運行しているというような形になります。
南雲委員	乗ったことがないので教えてください。商店街にも停留所を設けて乗り降りができるシステムだった、という認識でよろしいでしょうか。
岩野学芸員	駄菓子屋C57のところに停留所を設けてそこで乗り降りしていた分をやめて、新津美術館の方に行くようにした、というようになっています。
南雲委員	そうすると、別紙4の基本方針のところで気になるのは、商店街との連携が新津鉄道資料館の素晴らしい取り組みの一つであることを考えると、商店街を止めて他の美術館とを結ぶ、というのはどういったお考えなのでしょうか。
加藤副館長	商店街さんとの連携といった点では、物販の部分でご協力いただいている、という点がございます。サンクスフェアの時にもご出店いただいております。そういった形で商店街さんとの連携を引き続きやっていると考えております。その点、今回美術館と結ぶ運行は初めてとなりますので、運行の実績と皆さんの反響を見ながら、来年度のバスの運行を引き続き検討していきたいと考えています。
岩野学芸員	これは我々としても苦しかったところですが、背景に路線バスが縮小傾向にある点がありまして、それまで美術館の方に行っていた小型の路線バスが土日走らなくなってしまった、というのがありまして、美術館の方から鉄道資料館のシャトルバスを回してもらえないか、というオファーがありました。それぞれシャトルバスを運行しようとするとうバスを取り合いが生じるということで、今年度に関しましては路線バスに代わる美術館への公共交通の足として、土日資料館の巡回バスを大きくして美術館へ運行することになった、という次第です。ご指摘の通り商店街への足が減っているのではないかとということですが、
金山座長	そこで意見交換ということがあればいいかと
高山館長	前副館長がいたときにもうこの話が来ていました。もう一つは時間の問題です。新津駅と商店街さんは近いので、もっと遠いところで足を確保しなければならぬところを優先させていただいたという判断です。
金山座長	それならしょうがないですね。これは行政の判断ですから。
野本委員	そうなるとこの資料館は、商店街との連携がミッションの一つになっているわけだから。

高山館長	最後は、停車時間と発車時間でだいぶ悩みました。最終的には、駅前ですう離れてはいないから、そちらの方ご利用していただこうとそういう形でご了承いただいた、ということです。
金山座長	よろしいですか。
南雲委員	はい、ありがとうございます。
野本委員	他にいいですか。あの、別紙4-1の具体的な方針というのは、1から4まで挙げているのは例年と同じものですか？
岩野学芸員	一緒です。
金山座長	他にご意見・ご質問いかがでしょうか。時間はだいぶありますので。
野本委員	(別紙4-1)6番の施設普及、広報・宣伝、新津サテライトの活用ですけども、我々商店街としては、びゅうプラザ跡を開けるということを知っていますが、サテライトはびゅうプラザに移るんですか？
加藤副館長	はい。その方向で検討しています。
野本委員	ということは、今のサテライトは無くなって、びゅうプラザの所でやる予定ですか？
加藤副館長	はい。
野本委員	ありがとうございます。
金山座長	よろしいでしょうか。
岩野学芸員	事情を説明しますと、新津駅の東口の階段を下りて長岡方のところにびゅうプラザがあり、そこがこの3月で閉鎖となりました。その跡地をどうやって利用しようかと秋葉区役所の産業振興課と商店街などでアイデア出しをしていて、今、階段直下にあるサテライトは、建物としてあまり労働環境は良くないし、一人だけいるのはセキュリティ面でどうかということもあって、そのびゅう跡地の方に行って一緒にやれないかという話で動いているところです。まだ正式には出ていませんけれども。
高山館長	びゅうプラザを止めた後、観光案内所にするので、そこに一緒に入るということです。
金山座長	テナント代は発生するのですか。
高山館長	びゅう跡地を区役所が借りるかたちです。
沢野委員	スペース的にはどうですか。
岩野学芸員	スペース的には、かなり広がります。カウンターがきちんと設けられているので、来客対応としては良くなると思います。
金山座長	スペースをうまく活用できる、ということですね。
高山館長	今度はトイレも付きますし、給湯場所もございますので労働環境的には良くなります。業務的には、観光案内所に配置されるスタッフと並行するかたちになりますが、レンタサイクルの貸し出しについてはお手伝いいただける、とい



	う形で話を詰めている次第です。場所的には、前より広がっていますし、使い勝手はいいかと思えます。ただ、サテライトという名前を残していただけるかは我々も具申しているところですけども。
野本委員	資料館の施設だから、名前は残していきたいですね。私からも言っておきます。
高山館長	ありがとうございます。お願いします。
金山座長	他によろしいでしょうか。 別紙2-1、2番目の資料の整理というところですが、進捗状況はいかがでしょう。
岩野学芸員	まずは、網をかけるということで、昨冬臨時職員さんにリストアップをお願いし、ネガフィルムの整理と紙焼きの瀬古先生が封筒に分けていた写真、ミニアルバムに入っていた写真は一応表題をつけるところまでは行きました。あと、紙物のリーフレットについては、リストが半分くらいできています。肝心の画像の方は、きちんとデータベースに登録しているところは、まずデジタル化しなくてはいけないのですけれども、その部分は量が膨大なのでなかなかスタートが切れずに、今その瀬古先生が文字情報として書いてくれたものはデジタル化できている状況です。将来的には、すべてデジタル化してすぐ検索できるような体制にしたいという野望は持っています。やってみてわかったのは、特に90年代以降に写真が簡単にプリントできるようになってからのものがものすごく膨大で、解説もないまま量が沢山あるので、どういう風にして解説していくかというところを思案しています。むしろ古い方はきちんと丁寧に書いてあります。
金山座長	まあ、資料整理は鉄道資料館の最も基本的な作業ですから、日常的に整理するのはどのくらいの体制でやっていますか。
岩野学芸員	今サテライトの皆さんが、サテライト閉めている間、人件費がある程度余裕があったときに資料館に来てもらって、文字情報をエクセルで入力してもらって記録してもらおうというのをやってもらっています。それを整理してデータベース化していくという作業をしています。
金山座長	冬場だけしかやっていないということですか。
岩野学芸員	そうですね、通年で作業するには場所がないし、それから人手が足りないしといったところで、どうしても季節労働みたいになってしまうところがあります。できれば一年ずっと動いてやりたいですが。
金山座長	やっていけるような体制が作れるといいですね。間が開いてしまったりかえってロスになりますね。
岩野学芸員	思い出するのに時間がかかったりします。資料は本館にあるのと、一部こちら新津地域学園の倉庫棟の方にこの春に一時避難的に置かせてもらっていると

	ころがあります。
金山座長	その辺ぜひ検証してください。ほかにありますか。はいどうぞ。
帆苺委員	資料の関係ですけど、前副館長にもちょっとお話したのですが、私の父も保線区にいて、写真も事故の写真とかたくさん保管してある状況です。そういったものは展示できないのでしょうか？
岩野学芸員	できないことはないですけど。(苦笑)
高山館長	できない、ということはいけませんし、我々もいづらか収蔵展という形で未展示のものを出すことも学芸員の方で考えたり、また実際にやったりしています。全く出さないということはないので、もしそういった資料があれば我々の方に寄贈できればなど。出す出さないは我々の方で宿題をいただくという形で。いずれそういうのが必要とされる時代が来るでしょうし。
帆苺委員	父も現場の上の方におったから、もちろん報告しなきゃいけないから撮っていたと思うのですが、生きていたうちに話を聞いていなかったもので、詳しいことは分かりませんが。そういうことがあると知っておいていただいて、必要でしたら寄附してもいいです。以上です。
金山座長	そういう資料をお持ちの方は市内にいっぱいいらっしゃるし、まだお元気なうちならいいけど、保管し切れなくなったときに、一番問題なのでそういう要望があったときに、資料館の方で対応できるようにしていただければと思います。そのためには、さっきお話あった資料の整理もそれが滞っていると、受け入れられませんので、そこはコンスタントに整理をして収蔵できるようにし、そしていつでもそういう新しい資料を受け入れられるよう、今していくことが大事。ですから、なかなか目には見えないので事業の形になってしまうけれども、でも、資料館とか博物館の基本は資料ですから、そこはきちんと整理・保管していくということを配慮していただければと思います。課長さん、ぜひよろしくお願いします。
奥原委員	今、うちの博物館で「鉄道マンの仕事アルバム」という企画展をやっております。写真展ですけども、メインの担当の学芸員が、今まで展示しなかった写真をできるだけ出したいということで、やはり鉄道というどうしても車両に偏りがちですけど、それだけではなくて、鉄道の現場で働いている姿を記録した写真をできるだけ出す、という方針で展示を構成しました。今お話あった事故の写真でいうと、昭和40年代に米坂線が土砂崩れで不通になったときに、復旧作業をしているところの写真がありまして、今まで一回も展示に出したことがなかったんですが、それこそ保線の人だけじゃなくてあらゆる職場の人が駆けつけて、乗客を助け出すというシーンが記録に残っています。今まで事故や災害に関する写真というのは、ネガティブなものということでなかなか展示に出すことができなかったのですが、鉄道マンが緊急事態の際には組織の枠を越えて、乗客を救助する、復旧作業に当たるということを当たり前

	<p>行っていた姿は紹介すべきとの考えに立って展示しました。来館者の方の反応もよく、鉄道マンの働く姿の記録として貴重なものだとの認識を新たにしました。現場の記録、事故の記録も鉄道の仕事の記録としては貴重ですし、見せ方を工夫すれば活用は可能ですので、機会があれば収集されてはいかがでしょうか。</p>
金山座長	<p>ありがとうございます。他によろしいでしょうか。では、事務局の方から何かお話はありませんでしょうか。</p>
加藤副館長	<p>はい</p>
金山座長	<p>ではその他ということで、何かございますでしょうか。</p>
高山館長	<p>はい一つだけ、30年度の入館者については先程報告した通りですけれども、今年度の入館者について若干中でも触れていますけれども、10連休の関係とそれから今度4月の第4日曜日からE4の運転席公開をやりました。私そんなに人気が出るとは思わなかったですけれども、おかげさまで、意外に入りがよくて、1割くらい昨年より入りが良くなっていて、今のところ4月・5月も対前年アップしていますし、また今月についても、非常にいい傾向で来ている、ということをちょっとご報告致します。</p>
金山座長	<p>特にトラブルありませんでしたか。</p>
高山館長	<p>一応、きつかったです。要はE4の入り口のところからミニSLの線路のところまで行列がズラッとつながりました。どうするか悩みましたが、整理券を配ることとしました。一回200組くらい。まあ、200組というとその3倍くらい、だいたいお子さん連れで来ますので、すごく喜んでくれて、今のところすごい人気ですね。</p>
金山座長	<p>ではこれで、特にないようでしたら、事務局にお返しいたします。よろしいでしょうか、はい。どうも皆さんありがとうございました。(一同、挨拶)</p>
高山館長	<p>それでは皆さんから貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>また、今後の資料館の運営をさらなるものとするために、今日ご頂戴したご意見等を踏まえて、また我々も一層努力をしながら、この資料館を盛り立てていきたいという風に考えておりますので、皆さん方これからもまたお力添えの方、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それではこれで、令和元年度第1回運営協議会を終了させていただきたいと思ひます。本当に今日はありがとうございました。(一同、挨拶)</p>